

## 第 2 回 津山市教育振興基本計画検討委員会 会議録

- 日 時 平成 23 年 7 月 15 日（金）14：00～16：15
- 場 所 津山市役所すこやか・こどもセンター多目的会議室
- 出席者
  - ・津山市教育振興基本計画検討委員 9 名
    - 委員長 松岡信義（美作大学短期大学部教授）
    - 副委員長 林宏和（津山市 P T A 連合会会長）
    - 委 員 遠藤知子（ジェンダーフリー美作代表）、岡田正（津山工業高等専門学校教授（副校長））、小坂田昌平（津山市体育協会会長）、可児通宏（くらしき作陽大学非常勤講師及び津山市文化財保護委員）、國藤義隆（自営業役員）、櫛本真弓（一般公募）、八木芙佐子（津山市文化連盟会長）
  - ・検討委員会オブザーバー 3 名
  - ・事務局 教育長、教育委員会関係部課長、企画調整官、関係各課長等 16 名

### 1．開会

### 2．委員長あいさつ

### 3．議事

序章、第 1 章について

（事務局説明）

- ・本市の特徴として、箕作元甫を初めとした多くの人材を輩出している点、大学・短期大学・高等専門学校、高等学校などの学校が多く、教育文化都市である点を挙げている。
- ・人口は、平成 7 年をピークに減少しており、また年少人口が 65 歳以上人口の割合を下回っているが、一方では、世帯数は増加傾向にあり核家族化が進んでいる。
- ・学校教育について、児童生徒数・学級数はこの先 5 年間でほぼ横ばいと想定されるが、1 学級あたりの児童生徒数については小中学校ともに学校間で差がある。学力については、全国学力学習状況調査の結果は全国平均より下回っているが、平成 19 年度と平成 22 年度を比較すると、その差は縮まっている。
- ・家庭の教育力について低下したと思う方が増えている。生活習慣については、夜型の子どもの数が増えている。地域社会については、子どもと大人が交流する機会が減少傾向にある。少年非行については、全刑法犯罪者の少年である割合が 45% と高い。生涯学習については、市民一人ひとりが一生涯学び続け、学んだことを他に広げていくという知の循環型社会につながることを求められており、その実現のために平成 22 年 3 月に第 3 次

津山市生涯学習推進計画を策定した。

- ・スポーツ活動については、その成果について、競技力の向上のみならず労働力の確保やコミュニケーション能力の向上等の点が注目されている。
- ・地域文化・文化財については、施策の基本的な指針として平成 22 年に「津山市文化振興ビジョン」を策定し、市民が文化を育むまち、地域文化が継承されるまち、行政全体で文化を考えるまちを目指している。
- ・人権教育については、以前から問題とされている偏見や差別に加え、新たにインターネット上での問題もあがっている。

（委員から）

- ・幼児教育の現状と課題等について記載がない。
- ・核家族化がすすんでいるという点について、具体的なデータがあればいいと思う。文化の伝承についても、核家族化等により世代間交流ができなくなると困難になる。
- ・表現の仕方、言葉の選び方について、どなたが読んでも読みやすい表現でなくてはならない。
- ・生活環境について、地域に生活している子どもたちは有形無形に影響を受けており、津山市の特徴をさらに分析し、津山市の中で育つということはどういうことなのか、その中でどういうところを伸ばせばよいのかの議論を深める。
- ・文化遺産の保存と継承について年々困難となっている。地域文化、伝統文化は津山らしさであり、他都市に誇れる文化財であるので、保有している文化財の保存や活用、活性化について他機関との連携のもとの施策展開が必要。
- ・価値観の多様化を認めながら、スポーツ面に力を入れていくのも良い。
- ・地域の教育、大人がすべきことについて、大人はどこかで見ていたんだというふうに子どもが思っていることが大切。

第 2 章について

（事務局説明）

- ・第 4 次総合計画、平成 23 年度教育行政重点施策に基づいて施策をすすめている。
- ・今後 10 年間を見通した 5 年間の計画での基本理念、基本方針について、いうなれば教育の憲法に値する箇所であり、検討をいただきたいと考えている。

（委員から）

- ・いままでいいとされてきた価値観について多様化しており、どれがいいのか自ら選ぶことができることが大事。そのためには、きちんとした基本の知識を蓄えること、周りの人とコミュニケーションをとったり協調することが必要。
- ・津山の良さ、伸ばすべき所に焦点をあてて、それをいかに伸ばしていくかを考える理念づくりをすべきである。

- ・生涯学習社会で生きていくためには自らが学ぶという積極的な姿勢が大切で、個人の向上を目指す自発的な意思が表に出るようなことを盛り込みたい。
- ・高齢者のマンパワーをいかに活用するか、そのためには生涯学習の場をいかに充実していくか、教育環境をいかに作っていくかを押さえる。
- ・いろいろな文化を子や孫に伝えていくことの大切さ、郷土を語ることのできる人材の育成も必要。
- ・個性を光らせること、郷土に対する愛着心を育むことが大切。
- ・相手思いやる気持ちが損なわれることのないよう、個人主義にはしることのないよう。
- ・地域の力とそのつながりの必要性、地域力の復活は、郷土愛の醸成にも繋がってくる。家庭教育力や学校教育にも地域の力が必要とされていることを感じている。地域の人づくりを教育として捉えて盛り込んでいけないか。

#### （オブザーバーから）

- ・すべての子どもに隔てのない愛情と優しさがそそがれる環境が用意されることが必要。
- ・基本理念が違えばデータの捉え方も違う。大切なのは、現在の状況を向上させるために我々が何をがんばらなければならないかだ。
- ・社会の中で豊かに生きていける子どもたちを育てたい。生きる力、自立について考察があればと思う。また、ふるさと津山を愛する市民を育てるという大前提のもとに何をしたらいいのか、そのあたりを充実してほしいと思う。

#### その他

- ・第3回検討会の開催について

平成23年8月29日（月）14時開会

#### 4．その他

なし

#### 5．閉会